資　　料　　6

市内小中学校、高等学校及び児童館で実施したワークショップ等について（報告）

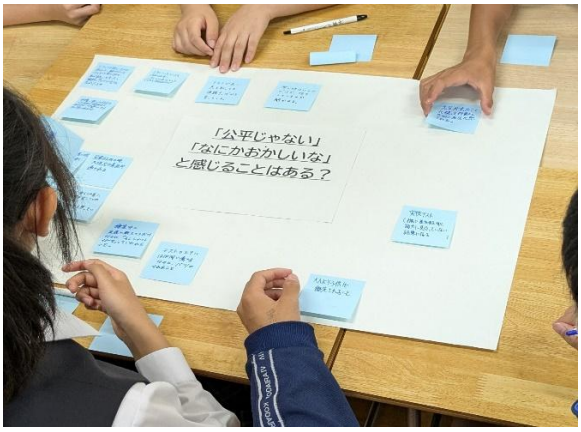
① 花小金井南児童館ワークショップ

意見聴取の場	花小金井南児童館の皆さんの意見を聴く場 自分が嬉しいと感じた時を教えて！！
日にち	令和８年５月１９日(火)１６：００～
対象者	花小金井南児童館に来館している小学生
実施形態	２つのグループに分かれたワークショップ
内容	【ワークショップの流れ】 こども会議に集まってくれた小学生(１２名)を対象にワークショップを行った。 ワークショップ実施にあたり、意見聴取の目的について共通理解を図るため、(仮)小平市こども条例の策定について、こどもたちにとって大切なルールを作ることであると説明し、導入として、こどもの権利についての絵本『こどものけんりのほん』の読み聞かせを行った。その後、２グループ(低学年チームと高学年チーム)に分かれ、ワークショップとして【嬉しいと感じるとき・嫌だなと感じた時】をテーマにこども達の思いや意見を付箋に記入してもらい、模造紙に貼り付けることで可視化した。 最後にグループごとに挙げられた思いや意見について発表した。 【挙げられた意見】 自分が嬉しいと感じるときはどんな時？の質問では、ほめてもらえたとき、運動会の日、うんどうかいでかってうれしかった。外でいっぱい遊べること、パパと一緒にゲームができた時、旅行に行った時、夏休みが始まった時等の意見が挙げられた。 どんな気持ちだったかと聴いていくと「(褒められて)じぶんもできた。やったー。」「運動会でかってうれしかった」「(運動会で)みんながよろこんでくれたから」「ママが褒めてくれたから」「ダンスや徒競走ができたから」「(夏休みが始まり)学校に行かなくていいから。ゲームができるから。友達と一緒に遊べるから」 イヤだなと感じるときはどんな時？の質問では、不審者がすごいはやっている。交通事故が流行っている。次の日、学校がある。梅雨がいやだ。怒られるとき、たたかれたとき等との意見が挙げられた。どんな気

	持ちだったかを聴いていくと「(不審者がいたら)こわい」「友達がひかれたら、かなしい」「学校は楽しいけど、登校するのが嫌だ」「(登校すると時の)荷物が重い」等の意見が挙げられた。 【当日の様子】 〈担当者の説明〉  〈絵本の読み聞かせ〉  〈ワークショップの様子〉 

② 小平市立第四中学校ワークショップ

意見聴取の場	小平市立第四中学校の生徒会の皆さんの意見を聴く場 普段思っていること・感じていることを教えて！！
日にち	令和８年５月２５日(木)１６：００～
対象者	小平市立第４中学校の生徒会の生徒(7 名)
実施形態	ワークショップ
内容	【ワークショップの流れ】 小平市立第四中学校生徒会の生徒(7 名)を対象にワークショップを行った。 ワークショップ実施にあたり、意見聴取の目的について共通理解を図るため、(仮)小平市こども条例の制定について、こどもたちにとって大切なルールを作ることであると説明し、導入として、日本ユニセフ協会発行の『読んでみよう！「こどもの権利条約」第１～４０条』『知ってる？こどもの権利』の資料を基に、こどもの権利について説明した。 その後、ワークショップとして【日常生活で、「不公平だな」「なにかおかしいな」と感じることはある？】をテーマにこども達の思いや意見を付箋に記入してもらい、模造紙に貼り付けることで可視化した。その後、挙げられた思いや意見について話し合いを行い、出された意見を共有・共感し、どうしたら良かったのか話し合った。 最後に今日の感想を一人ひとりに聞いていった。 【挙げられた意見】 日常生活で、「不公平だな」「なにかおかしいな」と感じることはあるかという質問に対して、「テストで良い点を取っても、課題点ばかり言ってくる」「したことは同じなのに、人によっては怒られる度合いが違う。」「妹だけゆるされる」「兄弟げんかの時、大体兄の意見が通される。」「少し休憩しただけで、何をしてるのか聞かれる」「授業で遅刻を何回もした先生が謝らずに、私たちが１回遅刻すると怒られる時」等の意見が出た。 意見を基に話し合いを行っていくと、「もうちょっと褒めてほしい。」「自分で時間を決めているのに、言われるとやる気をなくしてしまう。」「妹が泣いてぐずるから優先されてしまう」「平等にしてほしい」等の思いを聴くことができた。

	ワークショップ後の感想では、「普段思っていることを、みんなも思っていると感じた」「最初は思いつかなかったけど、みんなの意見を聴いて確かにということがあった」「今まで思っていたことが吐き出せてスッキリした」「よくわかる意見もあったし、知らないものもあって楽しかった。」「大人の権力は、こどもとは格が違う」との感想があった。 【当日の様子】 〈担当者の説明〉  〈ワークショップの様子〉 

③ 小平南高等学校ワークショップ	
意見聴取の場	小平南高等学校の生徒会の皆さんの意見を聴く場 普段思っていること・感じていることを教えて！！
日にち	令和８年７月 13 日(月)１４：００～
対象者	小平南高等学校の生徒会の生徒(6 名)
実施形態	ワークショップ
内容	【ワークショップの流れ】 小平南高等学校生徒会の生徒(6 名)を対象にワークショップを行った。 アイスブレイクでは、２グループに分かれ、ペーパータワー競争(A4 のコピー用紙を用いて、グループで考えながら協力し、いかに高く積み上げられるかを競うゲーム)を行い、メンバーの緊張を和らげる時間とした。 その後、意見聴取の目的について共通理解を図るため、(仮)小平市こども条例の制定についての説明や、導入として、日本ユニセフ協会発行の『読んでみよう！「こどもの権利条約」第１～４０条』やパワーポイントの資料等を基に、こどもの権利やこどもまんなか社会について説明した。 ワークショップは一年生と二年生の２グループに分かれ行った。 ①＜日常生活で、「不公平だな」「なにかおかしいな」と感じることはある？＞、 ②＜自分の意見は言えている？言えてない時ってどんな時？＞をテーマにこども達の思いや意見を付箋に記入してもらい、模造紙に貼り付けることで可視化した。その後、挙げられた思いや意見について話し合いを行い、出された意見を共有・共感し、どうしたら良かったのか話し合った。 最後に今日の感想を一人ひとりに聞いていった。 【挙げられた意見】 ＜自分の意見は言えている？言えてない時ってどんな時？＞の質問では、「家族や親しい友達には言うことができている。」「他の人と意見が違った時」「伝えたら相手を不安にさせてしまう。困らせてしまうと思う時」「立場的に言いにくい」「自分ばかりの思いを伝えすぎていると

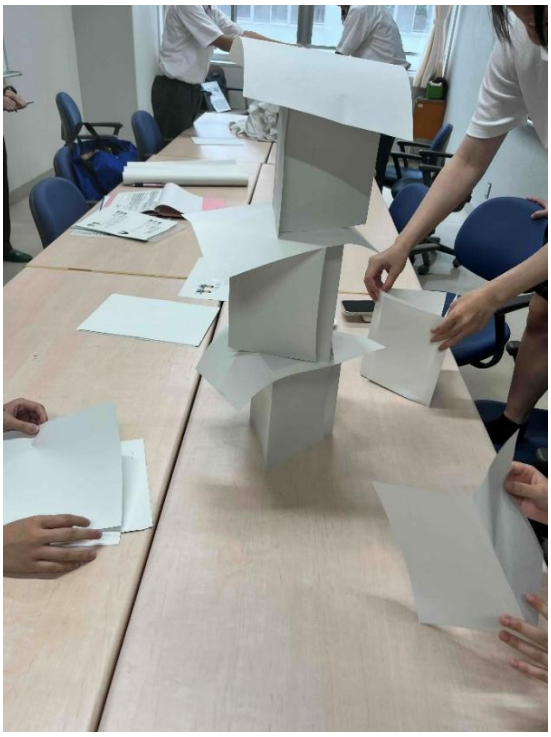
	思ったとき」 〈言えるようにしていくにはどうしたらいいか〉の質問では「(伝えられるよう)もっとしゃべってみる」「相手の意見にも賛成しつつ、自分の意見も納得してもらえるようにしている。」 〈言える時は、どんな場面？〉「自分をよく知っていて共感してもらいやすいから話やすい」」等の意見が出された。 ＜日常生活で、「不公平だな」「なにかおかしいな」と感じることはある？＞の質問に対しては、「身体能力や髪質など、生まれ持った特性について不公平だと感じることがある。」「お姉ちゃんだから、と怒られるのは不公平」「修学旅行先の希望が叶わない（大人が決定権を持っている）のが悔しい。」「生徒だけでなく、先生も（こどもから）評価を受けるべき」などの意見が出された。 ワークショップを踏まえ、＜どんな社会にしていきたいか？＞の質問では「公平な社会」「一人ひとりが抱え込まないよう平等にしていく」「思いを伝えられる場をつくる」「自分の意見の源となる体験を全員ができる社会」等の意見が挙げられた。 一人一人の感想からは、「初めはなかなか書き出せなかったけれど、書き始めるとどんどん色んな思いが出てきた。」「書き出すことで可視化され、自分の考えや思いが明確になった。」「不公平さや違和感を覚えていても、どこかであきらめている自分がいることに気づいた。」「意外と自分の思いを言えていると思った。」「今日のような機会が与えられたり、昔に比べ、今は良い時代になったと思う。」など、今回のワークショップがこどもたち自身の気づきの場にもなったようだった。

【当日の様子】



〈アイスブレイク〉





＜ワークショップ＞



	自分の思いは伝えられている？ 伝えられない時ってどんな時？

④ 小平第三小学校出前講座	
意見聴取の場	小平市立小平第三小学校６年生の意見を聴く場 （普段思っていること・感じていることを教えて！）
日時	令和８年７月１６日(木)３時限目、４時限目
対象者	小平市立小平第三小学校６年生（約７０名）
実施形態	講義（出前講座）およびワークショップ
内容	【当日の流れ】 ６年３組の教室にて、講義（出前講座）及びワークショップを行った。 まず初めに、意見聴取の目的について共通理解を図るため、「こどもまんなか社会ってどんな社会？」というテーマに基づき、(仮)小平市こども条例の制定についての説明を行うとともに、日本ユニセフ協会発行の『読んでみよう！「こどもの権利条約」第１～４０条』やパワーポイントの資料等をもとに、こどもの権利やこどもまんなか社会について講義を行った。 次に講義の内容を踏まえ、4，５人ごとの班に分かれてワークショップを行った。ワークのテーマは「わたしがホッとする時・ホッとする場所」とし、こども達に自身の思いや意見について話し合ってもらい、それらを付箋に記入してもらった。 その後、班ごとの発表を行い、出された意見をクラス全体で共有した。最後に模造紙に付箋を貼り付けることで、こども達の思いや意見を可視化した。 【挙げられた意見】 ほっとできる場所は、家、リビング、トイレ、学校の掃除用具入れ、自分の部屋、おじいちゃんの膝枕等の意見が挙がった。 ほっとできる時は、友達と一緒にいる時、家に帰った時、家に帰ってきて荷物を置く瞬間、家の中にいる時、ベットに飛び込む瞬間や寝る時、推し活をしている時、自分の部屋でゲームをしている時、アニメを見ている時、一人時間、運動している時等挙げられた。 家がほっとできる場だとの意見が多く聴かれた。ワーク中に理由を聞くと、家では好きなことができるからと返答があった。また、友達と一緒にいるとき、猫と一緒にいるときにほっとするという意見では、さみしがりやだから、誰かと一緒にいるとほっとするからと理由も挙がっ

	ていた。 【当日の様子】  


こどもまんなか
社会って？
わたしが、
「ほっとする」時
「ほっとできる」場所


こどもまんなか
社会って？
わたしが、
「ほっとする」時
「ほっとできる」場所